

第2回 石見神楽保存・伝承拠点基本構想検討委員会

2025年7月11日

石見神楽の保存・伝承に関する 5 つの提言

【提言 1】

- 神職によって舞われていた時代から継承されてきた「伝統的な舞の文化」を後世に引き継ぐとともに、石見神楽団体（舞、舞い手、楽人）の保存・伝承に向けて、行政と石見神楽団体が中心となり取組を推進する必要があります。

【提言 2】

- 石見神楽関連産業やものづくり技術の保存・継承のために、行政による伝統工芸品や技術の保護が必要です。また、石見神楽関連産業の維持・発展に向けた取組を検討する必要があります。

【提言 3】

- 「石見神楽を創り出したまち浜田」という言葉が市民に十分理解され浸透するとともに、浜田の子どもたちがふるさとを象徴するものとして石見神楽を挙げ、誇りをもって説明できるようになるための市民向けの情報発信が必要です。それがひいては、石見神楽を目的とした浜田市への観光客に向けた情報発信にもつながります。

【提言 4】

- 行政が中心となり、石見神楽団体、石見神楽関連産業従事者、有識者などと協力しながら調査研究を行い、「石見神楽を創り出したまち浜田」としての価値や魅力を更に明確なものとしていく必要があります。

【提言 5】

- 石見神楽の保存・伝承のために、歴史的な石見神楽用具や関係資料などの保存・展示や石見神楽について学ぶことができ、そこに行けば浜田の石見神楽が全てわかる拠点施設の検討が必要です。また、この拠点施設が核となり、市内各地に点在する石見神楽関連施設への案内機能も担うなど、「石見神楽を創り出したまち」としての中心的な役割を担うことが期待されます。

基本構想の作成にあたってのポイント

1. 拠点のあり方の明確化

本基本構想の検討にあたっては、「カタチ」からアプローチするのではなく、**拠点を設けることを通じて何をを目指すのか**という観点でアプローチすることが大切である。

【イメージ】

拠点を設けることにより、〇〇ができるようになる。

- ・ どのような状態を目指すのか。
- ・ 上記を踏まえ、主なターゲットと整備の方向性を明確化
- ・ 目的を達成するために必要な機能



こども神楽

神楽定期公演（三宮神社）

2. 効果的な体験や展示活用方法の検討

- ・ 「1. 拠点のあり方の明確化」の整理及び必要機能を踏まえ、目的を達成するために効果的な方法を検討する。
- ・ ターゲット設定にもよりますが、**子どもたちにも理解しやすい体験・学習ができる場**であるとか、「**ここに来れば石見神楽のすべてがわかる**」というような、より詳細かつ専門的な情報が得られることも重要な要素



子ども体験展示室

3. 持続可能な運営スキームの検討

- ・ この拠点を通じて、後世にわたって永続的に石見神楽の保存・伝承を行うためには、運営のあり方についても検討・整理する。

検討スケジュール

回	開催日時	内容（案）
第1回 ※委託業務外	5月29日（木） 18:30～	会長・副会長の選任、石見神楽保存・伝承拠点基本構想検討委員会の検討事項 石見神楽の保存・伝承拠点に必要と考える機能や展示・活用方法等についての意見交換
第2回	7月11日（金） 18:30～	基本構想の方向性について意見交換：①拠点のあり方、必要な機能についての意見交換 （第1回の意見交換を踏まえて）
第3回	8月8日（金） 18:30～	基本構想の方向性について意見交換：①拠点のあり方、必要な機能や内容の整理・共有 ②拠点の活用に関する意見交換 展示物等調査結果などの共有（体験や展示に関する方針、内容及び手法等）
第4回	9月19日（金） 18:30～	基本構想の方向性について意見交換：①体験、展示方針の確定 ②拠点の活用に関する意見交換 （調査・研究などに関する方針や具体的内容）
第5回	10月16日（木） 18:30～	基本構想の方向性について意見交換：①保存・調査・研究に関する方針の確定 ②拠点の活用に関する意見交換 （施設規模・内容など）
第6回	11月18日（火） 18:30～	基本構想の方向性について意見交換：①概ねの規模や施設イメージの共有 ②運営方式・運営体制に関する意見交換
第7回	12月9日（火） 18:30～	基本構想案について意見交換 基本構想案に関する修正事項等について
第8回	第7回の検討状況 に応じて開催	基本構想案の最終調整・了承

第2回

石見神楽保存・伝承拠点基本構想検討委員会

グループワーク ステップ①

拠点を通して何をを目指すのか（目的）

拠点のあり方の明確化（目的）

「石見神楽の保存・伝承に関する提言」を踏まえ、
拠点を設けることにより・・・

①後継者の確保・育成ができる

⇒舞、舞い手、楽人や蛇胴、神楽面、衣裳、楽器などの石見神楽を構成する要素において重要な課題は後継者育成である。従って、本拠点が後継者の育成につながることが重要。

②浜田の神楽社中の保持演目が将来にわたり舞うことができる

⇒継承されてきた「伝統的な舞の文化」を継承するため、夜明け舞など多くの演目を舞うことができたり、練習できる環境を整備することが重要。

③市民が「石見神楽を創り出したまち浜田」を認識し、誇りに思うことができる

⇒市民や子どもたちが「石見神楽」を誇りに思えるように、石見神楽のルーツや本質について体験・学習できる場としての機能を有することが重要。

④より多くの市民や市外の人に石見神楽に関する情報を届けることができる

⇒石見神楽を目的として浜田を訪れる人が増えるような情報発信の方法や仕組みが重要。
（拠点の利用者のみに着目せず、市域全体での石見神楽目当ての来訪者が増える）

⑤市内にある貴重な石見神楽に関する用具等の散逸を防ぐことができる

⇒市内には、石見神楽に関する貴重な用具等が存在している。その散逸を防ぐためには用具等の保存・収蔵を行える場所や仕組みが重要。

⑥石見神楽に関する調査・研究を行うことにより、価値を明確化することができる

⇒上記のエビデンスを確立し、「石見神楽の価値や魅力」を明確にするためには、継続的な調査・研究が不可欠であり、そのための環境づくりが重要。

追加する項目があれば記載し、優先順位をつけてください

ワークシート

あり方（目的）	優先順位	必要な機能
①後継者育成の確保・育成		
②保持演目の伝承		
③市民の誇りの醸成		
④石見神楽の魅力を広く伝播		
⑤用具等の散逸の防止		
⑥調査・研究の充実		

第2回

石見神楽保存・伝承拠点基本構想検討委員会

グループワーク ステップ②

目的達成に向けて、
どんな機能が必要かを考えて提案する

ワークシート

あり方（目的）	優先順位	必要な機能
①後継者育成の確保・育成		・舞や奏楽などを体験できる【体験機能】 ・各神楽団体の情報を得ることができる【情報発信機能】 ・ものづくりの体験や見学をすることができる【体験機能、学習機能】 ・舞の練習ができる【舞殿機能】
②保持演目の伝承		・舞の練習や上演ができる【舞殿機能】 ・夜明け舞を行うことができる【舞殿機能】 ・舞（動き）をデジタル化し、複製することができる【調査・研究機能】
③市民の誇りの醸成		・石見神楽や神楽産業の歴史や変遷を学ぶことができる【学習機能、展示機能】 ・石見神楽についてわかりやすく学ぶことができる【学習機能、展示機能】
④石見神楽の魅力を広く伝播		・市内の神楽関連施設でのイベント等の情報が相互に発信ができる【情報発信機能】 ・誘客のための企画運営を充実できる【情報発信機能】
⑤用具等の散逸の防止		・散逸する可能性がある神楽の用具等を保存・収蔵することができる【収蔵機能】
⑥調査・研究の充実		・研究材料が身近にあり、効率的に研究できる【展示・収蔵機能】 ・石見神楽のルーツや関連するモノ・コト・ヒトの文化的価値を検証することができる【調査・研究】